



「妊娠と薬の話」

妊婦さんから時々「この薬って使って良いですか？」という質問を受けます。やはり、おなかの赤ちゃんに対する影響が心配になりますよね。

ご安心ください！多くの薬は胎児に影響を及ぼしません。例えば、市販の薬は、ほとんどが問題ありません（念のために購入時には薬剤師にご相談ください）。日本産科婦人科学会では「産婦人科診療ガイドライン2023」において下記の薬剤は胎児への影響があるため服用しないように推奨しています（次ページ 表1、2、3）。

ご覧になると判るように、ほとんどが医師の処方する処方薬で馴染みがない薬ばかりです。唯一、妊娠末期（次ページ 表3）の非ステロイド系抗炎症薬は市販もされています（内服薬〈ロキソニン®など〉や湿布薬など）。非ステロイド系抗炎症薬は特に妊娠28週以降は胎児の心臓（動脈管）に影響する場合があります。また最近では羊水が少なくなる羊水過少などの報告もみられているため使用しません。そのため妊婦さんの風邪などで発熱に対して使用する場合はアセトアミノフェン（カロナール®など）を用いることが多いです。

また妊婦さんの腰痛はとても多い症状ですが、安易に市販の湿布薬を使うことはやめましょう。湿布薬にもしっかりと非ステロイド系抗炎症薬が含まれていますので、軽い運動やマッサージなどで対応しましょう。

また胃薬、点眼薬、抗アレルギー薬、ステロイド外用剤、サプリメント、漢方薬なども質問される事が多い薬ですが、ほとんどの薬は問題ありません。念のため妊婦健診の際に担当医師に気軽にお尋ねください。

帝京大学病院では、薬の赤ちゃんへの影響（特に奇形）が心配な妊婦さんのために2024年4月より厚労省の事業の拠点病院の一つとして「妊娠と薬外来」を設置しました。詳しくは病院ホームページ「妊娠と薬外来」（https://www.teikyo-hospital.jp/medical/especial/pregnancy_medicine/）をご覧ください。

（次ページへつづく）



帝京大学医学部附属病院ホームページ「妊娠と薬外来」はこちら

URL : https://www.teikyo-hospital.jp/medical/especial/pregnancy_medicine/





「妊娠と薬の話」

(前ページからのつづき)

表1 (妊娠初期)

一般名または医薬品群名	代表的商品名	報告された催奇形性等
カルバマゼピン	テグレート [®] , 他	催奇形性
フェニトイン	アレピアチン [®] , ヒダントール [®] , 他	胎児ヒダントイン症候群
トリメタジオン	ミノアレ [®]	胎児トリメタジオン症候群
フェノバルビタール	フェノバル [®] , 他	口唇・口蓋裂, 他
バルプロ酸ナトリウム	デパケン [®] , セレニカ ^{®R} , 他	二分脊椎, 胎児バルプロ酸症候群
ミソプロストール	サイトテック [®]	メビウス症候群, 四肢切断 子宮収縮, 流産
チアマゾール (メチマゾール)	メルカゾール [®]	MMI 奇形症候群
ダナゾール	ボンゾール [®] , 他	女児外性器の男性化
ビタミン A (大量)	チョコラ ^{®A} , 他	催奇形性
エトレチナート	チガソン [®]	レチノイド胎児症 (皮下脂肪に蓄積して継続治療後は年単位で血中に残存)
ワルファリンカリウム (クマリン系抗凝薬)	ワーファリン, 他	ワルファリン胎芽病, 点状軟骨異栄養症, 中枢神経異常
メトトレキサート	リウマトレックス [®] , 他	メトトレキサート胎芽病
ミコフェノール酸モフェチル	セルセプト [®]	外耳・顔面形態異常, 口唇・口蓋裂, 遠位四肢・心臓・食道・腎臓の形態異常, 他 流産
シクロホスファミド	エンドキサン [®]	催奇形性
サリドマイド	サレド [®]	サリドマイド胎芽病 (上下肢形成不全, 内臓奇形, 他)

表2 (妊娠中期・後期)

一般名または医薬品群名	代表的商品名	報告された胎児毒性等
アンジオテンシン変換酵素阻害薬 (ACE-I)	カプトプリル [®] , レニベース [®] , 他	胎児腎障害・無尿・羊水過少, 肺低形成, Potter sequence
アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB)	ニューロタン [®] , バルサルタン, 他	
ミソプロストール	サイトテック [®]	子宮収縮, 流早産
テトラサイクリン系抗菌薬	アクロマイシン [®] , レダマイシン [®] , ミノマイシン [®] , 他	歯牙の着色, エナメル質形成不全
アミノグリコシド系抗結核薬	カナマイシン注, ストレプトマイシン注	非可逆的 VIII 脳神経障害, 先天性聴力障害

表3 (妊娠末期)

一般名または医薬品群名	代表的商品名	報告された胎児毒性
非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) (インドメタシン, シクロフェナクナトリウム, 他)	インダシム [®] , ボルタレン [®] , 他	動脈管収縮, 新生児遷延性肺高血圧, 羊水過少, 新生児壊死性腸炎

表1、表2、表3 出典元：日本産科婦人科学会 産婦人科診療ガイドライン産科編2023

産婦人科 総合周産期母子医療センター長 病院教授 笹森 幸文